

「宮城学院広報」第 147 号、2014 年 5 月 22 日発行

宮城学院女子大学学長

平 川 新

変わったこと

この四月から学長に就任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

じつは私が宮城学院女子大学に奉職するのは、今回が初めてではありません。1983 年に一般教育科の日本史担当の専任教員として勤務したことがあります。当時、32 歳でした。2 年間に在籍したのちに転出しましたので、およそ 30 年ぶりに古巣に戻ってきたこととなります。

キャンパスの風景は、昔のままだなあという印象です。芝生の園庭を取り囲むように建ち並ぶレンガ色の校舎とチャペル。雰囲気はほとんど変わっておりません。行き交うファッションナブルな学生たち。昔も今も、女子学生は華やかです。

変わったのはなにかといえば、歳をとった自分でしょうか、昔の同僚や副手さんも数人おられました。懐かしいですね。久しぶりにお目にかかる、瞬時に 30 年前のお顔が想い浮かんできます。変わったなあとも思いますし、あまり変わってないなあとも思います。

入学式の日気づいたことがあります。高校を卒業したばかりの 1 年生は、まだまだ少女という雰囲気を漂わせていますが、それを迎える 2 年生以上の先輩たちは、見事に返信して女性になっています。華やかさが板についているという感じです。成長することのすごさを実感しています。

もうひとつ変わったなあと思いますのは、大学をとりまく社会状況です。30 年前は宮城学院女子大学の全盛期でした。しかし今は、少子化に伴う 18 歳人口の減少によって、私立大学の入学状況は厳しいものとなってきています。それだけに全教職員が一丸となって、この難局に立ち向かわなければなりません。その舵取りを委ねられた者として、精一杯がんばりたいと考えています。

また宮城学院は、2016 年に創立 130 周年を迎えます。記念事業の実施にあたり、後援会や同窓会のみなさまには、なにかとご支援をお願いすることになるかと思えます。こちらでもよろしくお願いいたします。